

「何処」で生きる「誰」を対象とする大学教育なのか？  
——学校から仕事への移行研究からの示唆——  
児島 功和（岐阜大学）

## 1. はじめに

「大学教育をどうするべきか」という議論が盛んである。例えば、中央教育審議会大学分科会大学教育部会審議まとめ「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（平成 24 年 3 月）では、冒頭で新聞社による世論調査（「世界に通用する人材を育てることができていると思うか」「企業や社会が求める人材を育てることができていると思うか」）の結果を引用しながら、「国民は、大学教育について現在の状況に満足していない」と断言し、大学改革の必要性を強く主張している。

他方、教育目的として設定されているのは、グローバル化、流動化する社会に柔軟に適応・対応できる能力（ジェネリック・スキル）である（1）。同審議まとめでも、「予測困難な時代にあって生涯学び続け、主体的に考える力を持った人材」育成こそが、大学教育に求められていることであると、そのためには「受動的な学修経験」ではなく「アクティブ・ラーニング」等の積極的導入が必要であるとされている。

現代がどの程度予測困難な時代であるのか、予測が困難な時代には生涯学び続けることが必要なのであれば、大学在学中にのみ柔軟に対応できる能力を身につけるようにするのではなく、大学卒業後に「学びなおし」ができる制度を整備すべきではないのか等、本来であればそれぞれ検証・検討されるべき課題である（2）。

しかしながら、大学進学率約 5 割という状況があり、大衆教育機関としていまや若者が社会に出る前の最大の教育機関となった大学において、どのような教育をするべきかという課題には向き合う必要がある。そこで、本報告では、大学進学した若者の実態に立脚してその課題を遂行したい。本報告では、報告者の参加する量的・質的調査データに基づき、入学難易度中位以下の大学に進学した若者の学生生活と卒業後の就労生活に焦点をあてて、考察する。なお、こうした学生層を本報告では「ノンエリート大学生」と呼ぶこととする。

## 2. 調査概要

本報告で使用する量的調査データ（Youth Cohort Study of Japan）は、2007 年 4 月 1 日現在 20 歳の若者を毎年 1 回×5 年間を追跡したものであり（3）、質的データは、2003 年 3 月に東京都内の公立高校（入学難易度中位の A 高校と学区で最も難易度が低いとされる B 高校）を卒業した若者を約 7 年間に渡ってインタビューしたものである（4）。

### 3. 「ノンエリート大学生」の背景・大学生活

選抜性の高い大学の学生よりも社会階層が相対的に低く、「ブルーカラー」の割合も高い。また、中3次の成績も中位から下位の割合が高いなど、勉強を苦手とする者も少なくない。大学での学びでは、その大学で学んでいることが将来の高い収入や地位を得る上で役立ちそうとは考えていないものの、職業について学べることの肯定率は高い。他方、部活動やサークル活動に熱心に関わっている者の割合は低く、友人関係の構成を見ると、小学校・中学校時代の友人との「つながり」が大学入学後もなお一定維持されていることがわかる。これを大学へのコミットメントの“弱さ”と解釈することもできるが、他方でかれらにとって大学は小・中・高と地続きであり、またその生活空間の中での大学生活の位置づけを捉えることの必要性を示唆している。

### 4. 「ノンエリート大学生」の就労生活

非正規雇用で働く者の割合が高い。また、短時間×低収入の割合が相対的に高く、卸・小売・飲食業、その中でも事務職等ではなく販売やサービス等の「下位職種」で働く者の割合が高くなっている。また、子ども時代から大学卒業後就労するようになっても非三大都市圏（≒「地方」）に留まり続け、そこで生活している者の割合も高い。

### 5. まとめ

（データと分析の詳細含め、当日配布資料に記載する）

#### 【注】

- (1) ジェネリック・スキル等の「新しい能力」が大学教育に与える影響については、杉原真晃「〈新しい能力〉と教養」（松下佳代編著『〈新しい能力〉は教育を変えるか』ミネルヴァ書房、2010年）を参照。
- (2) こうした問題が鋭く問われるのは、とりわけキャリア教育においてであろう。この点については、伊原亮司「市場主義時代における能力論」高橋弦・竹内章郎編著『なぜ、市場化に違和感をいだくのか?』（晃洋書房、2014年）を参照。
- (3) 中村高康『若者の教育とキャリア形成に関する調査』概要（若者の教育とキャリア形成に関する研究会『若者の教育とキャリア形成に関する調査』最終調査結果報告書』2014年）を参照。<http://www.comp.tmu.ac.jp/ycsj2007/dl2/ycsj2007rep05.pdf>（2014年8月19日アクセス）
- (4) 乾彰夫編『高卒5年どう生き、これからどう生きるのか』（大月書店、2013年）の序章と第9章を参照。